

子ども達のより良い学びのために

「長浜の未来を拓く教育検討委員会」では、市内の県立高校のあり方について話し合い、滋賀県と県教育委員会への提言をめざすとともに、これからの教育・人材育成のあり方について検討しています。

第二次提言を行いました

これまでの検討結果を踏まえ、9月26日に県知事および県教育長にあてて、検討委員会から滋賀県立高等学校のあり方に関する提言（第二次提言）を行いました。

魅力と活力ある高等学校づくりに向けて ～滋賀県立高等学校のあり方に関する提言～

趣旨：この提言は、切実で真摯な地元の声を取り、市民目線に立って忌憚ない議論を交わし、地域の意見として取りまとめたものです。県および県教育委員会は、県民の視点に立って地域の思いをしっかりと受け止められ、今般、策定される再編計画にこの提言内容を必ず取り入れられるよう、強く求めます。

■基本的事項

- ・未来を担う子どもたちのことを最優先に考え、行財政資源の投入を図ること。
- ・地域との対話を重ねるなど、地域の思いや意見を十分に汲んだものとする。
- ・安全・安心な教育環境を確保するため、校舎等の耐震化を最優先で実施すること。
- ・全県一区制度の成果や影響について検証し、改善すべき点は速やかに是正すること。
- ・再編計画の実施時期は、現在の中学3年生に動揺を与えないよう、平成28年度以降とすること。

■提言の具体的事項および内容

1 学校活力の維持向上

- 弾力的な学校規模の設定と地域内での定数確保
- 教員の資質向上に向けた取組みと適材適所の教員配置
- 地域と高校とが密接に連携できる仕組みづくり



2 魅力と特色ある学校づくりの推進

- 魅力と特色ある学科・コースなど
- ・時代変化や地域事情に柔軟に対応できる人材を育成するため、「各学科のあるべき姿」について

3 定時制課程の維持発展

- 定時制課程の維持と柔軟で多様な学びの場の創出

4 中高一貫教育校設置の方向性

- 中高一貫教育校の設置と有効性の確保

5 さらに検討を求める事項

- 特別支援教育の充実
- 新しいタイプの学科・コース等の検討

※第一次提言・第二次提言やこれまでの委員会資料、議事録は市ホームページに掲載していますのでご覧ください。

新しい高校の設置場所について提案を行いました

上記の第二次提言にあわせて市から、長浜駅から徒歩5分圏内にある土地を確保し、県と協働して新しい教育環境を整えることを提案しました。これは、仮に検討委員会と県教育委員会との思いが一致するような新しい高校をつくるのであれば、通学条件の優れた場所に設置されることが望ましいと考え、行ったものです。

問 企画政策課 (☎65-6505 Eメールkikaku@city.nagahama.lg.jp)

シリーズ⑥ 北近江の観音さま

北近江の寺院や仏堂に祀られている多くの観音さま。今もなお地域のの人たちによって守り継がれています。その中から代表的なものをシリーズで紹介しています。

長浜市指定文化財

「木造聖観音立像（南郷町自治会）」

指定日：平成8年3月28日
所在地：南郷町



昭和63年、東京・横浜・福岡など各地で、はじめて湖北地方の仏像をテーマにした写真展が開催されました。横須賀在住の写真家・駒澤深道（当時は駒澤晃）氏による写真展「佛姿写真 近江 湖北妙音」です。氏ならではの、モノクロ写真で表現した湖北の仏たちの魅力は、多くの

人々を魅了し、湖北への憧憬の念を抱かせたものです。そのポスターや写真集の表紙を飾ったのは、国宝・重要文化財などの著名な像ではなく、当時まったく知られていなかった未指定のホトケでした。あの頃、「どこのお寺の像ですか？」といった問合せを数多く受けたことを、昨日のことのように思い出します。その像が、今

紹介する、南郷町の聖観音立像（現在は市指定文化財）です。ひと目で中央仏師の作とわかる、都ぶりで気品のある秀麗なお姿です。伏し目がちで丸みのある穏やかな面相、浅く繊細な衣文、おとなしい撫で肩、細身でバランスの良い体形など、平安時代末期の様式をとともよく示しています。

同写真展は、湖北の仏像の魅力を広く伝えたいばかりでなく、隠れた名作がまだまだ湖北には存在するという、層の厚さを知らしめたことも、大きな意義の一つでした。



問 長浜城歴史博物館
(☎63-4611)

座ぶとん会議

②

市では、風通しのよい開かれた市政を実現するために、市内の自治会をはじめ、自主的な地域活動を行っているグループ等を対象に、市長が市民の皆さんの生の声を聴く「座ぶとん会議」を開催しています。

大切な農業を守りたい

今回お集まりいただいたのは、湖北町内の大規模農家で構成される「自立農家の集い」の皆さん。湖北地域の約6割の面積で水稲、麦、大豆などを栽培し、年間を通じて研修会を行うなど、経営改善のために日夜努力されています。そんな皆さんにとって、最も悩ましいものの一つが獣害です。丹精込めて育てた農作物が、サルやイノシシなどによって荒らされると、せっかくの苦労が水の泡となり、やる気をそがれてしまいます。獣害は全国的な課題で、国や県も一定の取組みを行っています。市はこれと連動し、地域に即した対策を丁寧に根気強くやっていく必要があります。農業は湖北の最大の産業であり、また国家の礎です。この大切な農業を持続可能にしていくためには、農業経営で採算が取れる仕組みを考えなければなりません。そうでないと後継者も育ちません。今後の農業政策は、採算性の高い農業、また後継者を育成することができる環境づくりが必要です。



問 市民広報室 (☎65-6504)